

3つの「八代城」関係年表



山城
(石垣なし)



麦島城 歴代城主



小西 行長 加藤 清正 加藤 正方

海の近くの平城
(石垣あり)



海の近くの平城
(石垣あり)

松江城 歴代城主



加藤 正方 細川 三斎 松井 興長 松井 盈之

鎌倉時代末期・南北朝時代・室町時代・戦国時代

戦国時代・安土桃山時代・江戸時代前期

江戸時代前期・明治時代初期

ふる ふもと じょう

古麓城

- ◆初代「八代城」古麓城
- 建武元年(1334) 後醍醐天皇の臣・名和義高が八代の地頭職を与えられる。以後、八代は名和氏の支配となり、古麓に城郭が造られる。
- 永正元年(1504) 相良長毎が古麓城を占拠し、名和氏は宇土に撤退。
- 天文2年(1533) このころ相良氏によって古麓城が最も拡張・整備される。
- 天正9年(1581) 相良義陽、島津義久の攻撃を受け降伏。翌年八代は島津氏の支配となる。
- 天正15年(1587) 豊臣秀吉、九州攻めの途中に八代古麓城に滞在。

むぎ しま じょう

麦島城

- ◆2代目「八代城」麦島城
- 天正16年(1588) 豊臣秀吉、八代を小西行長に与える。行長は古麓城を廃し、徳淵近くの沿岸部に麦島城を新築。
- 慶長5年(1600) 関ヶ原合戦にて小西行長は敗死。加藤清正、麦島城を占拠。八代は加藤氏の支配となる。
- 慶長17年(1612) 清正没後、幕府は加藤氏家老の加藤正方を麦島城代に命じる。
- 元和元年(1615) 幕府が「一国一城令」発令。麦島城は特例として存続となる。
- 元和5年(1619) 大地震により麦島城が倒壊。加藤正方、新城建設に着手。

まつ え じょう

松江城

- ◆3代目「八代城」松江城
- 元和8年(1622) 加藤正方によって八代(松江)城ができてあがる。
- 寛永9年(1632) 加藤氏改易。12月、八代に細川三斎(忠興)が入城。
- 正保3年(1646) 三斎没(正保2年)後、家老の松井興長が八代城主となる。これ以後、明治に至るまで松井氏が代々在城。
- 寛文12年(1672) 落雷で八代城本丸大天守・小天守等焼失。翌年大天守以外の再建に着手。
- 元禄元年(1688) 松井直之が母・崇芳院尼の御茶屋(別荘)として松浜軒を建てる。
- 元禄10年(1697) 藩主細川綱利が八代を訪れ、松浜軒で接待を受ける。
- 正徳2年(1712) 熊本藩、藩士所有の野屋敷差し上げを命じるが、松井氏による松浜軒所有は特別に認められる。
- 宝暦7年(1757) 八代城二の丸に伝習堂と教衛場を設置。
- 明治3年(1870) 松井盈之、八代城守衛の任を解かれる。八代城廃城。



なるほど! 八代城

—もとのお城はどんな城?—

幕末の八代城(松江城)のすがた
「八代城図」(部分) / 一般財団法人松井文庫所蔵

南西方角の上空から見たように描かれた幕末(19世紀後半)の八代城です。中央部分が本丸で、左端には天守台が描かれています。元和8年(1622)の創建当初ここには天守がありました、この図には描かれていません。それは、天守が寛文12年(1672)の落雷で焼失してしまい、その後明治に至るまで一度も再建されなかったためです。

ここに描かれている建物は、明治3年(1870)の八代城廃城まで存続し、その後解体され、現在は本丸を中心に石垣と堀が残るのみとなっています。

八代城って どこにつくられたの？

はじめ古麓の山上につくられた八代城は、のちに球磨川河口の麦島、そして松江へ移転しました。

この地図には17世紀頃の大まかな地形と城の位置が描かれており、これを見ると麦島城と松江城がもともと沿岸部に造られていたことがよくわかります。

「天保肥後国絵図」(部分) / 八代市立博物館所蔵

大島

高島

3代目「八代城」松江城

1622年、加藤正方が麦島城に替わって新築した平城。現在と違い、この城もまた沿岸部に造られました。九州の要として江戸幕府に重要視された特別なお城です。

(所在地: 八代市松江城町)

古くからの
国際貿易港・徳淵

八代城

初代「八代城」古麓城

南北朝時代から戦国時代にかけて、名和氏・相良氏が築城・整備した山城で、この一帯が城下町として栄えました。1587年、九州に攻めて来た豊臣秀吉が滞在したのもここ。

(所在地: 八代市古麓町)

2代目「八代城」麦島城

1588年、八代の領主となったキリシタン大名・小西行長が、球磨川河口沿岸部の港・徳淵に隣接して築城した城。1600年以降は加藤氏の城となり、加藤正方が城主のときの1619年、大地震で倒壊。

(所在地: 八代市古城町)



…昔の道路
…現在の道路



東高
侍屋敷



もともとの本丸への入り口はココ
本丸の東側(八代市役所側)に架けられたこの橋が、もともとの本丸への入り口です。この橋の欄干にある擬宝珠(ぎぼし)に、完成の年をあらわす「元和八年」の文字が刻まれているので要チェック!

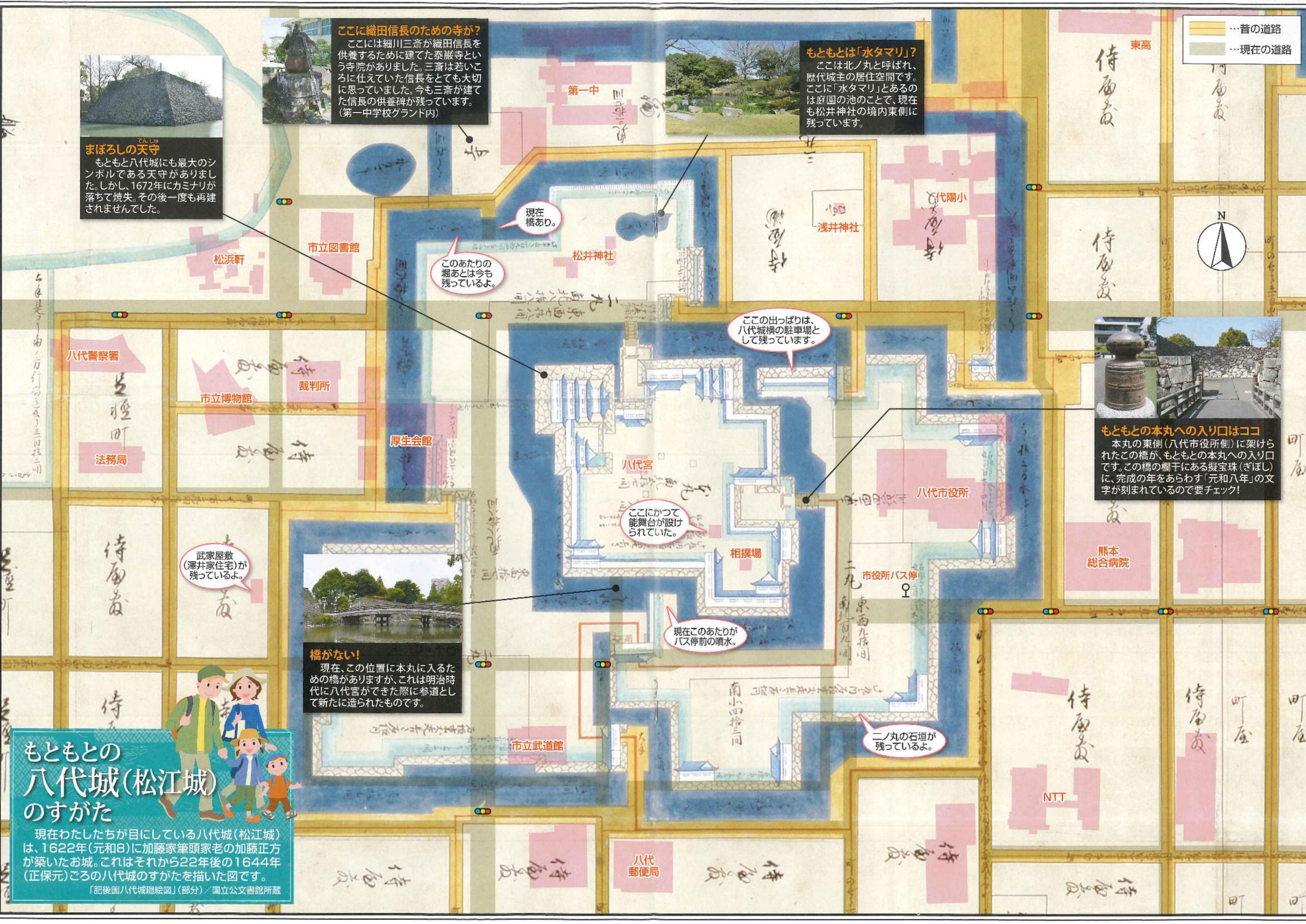
もともとは「水タマリ」?
ここは北ノ丸と呼ばれ、歴代城主の居住空間です。ここに「水タマリ」とあるのは庭園の池のことで、現在も松井神社の境内東側に残っています。



ここに織田信長のための寺が?
ここには細川三齋が織田信長を供養するために建てた泰蔵寺という寺院がありました。三齋は若いころに仕えていた信長をとて大切に思っていました。今も三齋が建てた信長の供養碑が残っています。(第一中学校グラウンド内)



まぼろしの天守
もともと八代城にも最大のシンボルである天守がありました。しかし、1672年にカミナリが落ちて焼失。その後一度も再建されませんでした。



このあたりの堀あとは今も残っているよ。

ここの出っぱりは、八代城横の駐車場として残っています。

ここにかつて能舞台が設けられていた。

現在このあたりがバス停前の噴水。

二ノ丸の石垣が残っているよ。

橋がない!
現在、この位置に本丸に入るための橋がありますが、これは明治時代に八代宮ができた際に参道として新たに造られたものです。



武家屋敷(澤井家住宅)が残っているよ。



もともとの八代城(松江城)のすがた

現在わたしたちが目にしてる八代城(松江城)は、1622年(元和8)に加藤家筆頭家老の加藤正方が築いたお城。これはそれから22年後の1644年(正保元)ころの八代城のすがたを描いた図です。
『肥後国八代城廻絵図』(部分) / 国立公文書館所蔵

八代警察署

市立博物館

裁判所

厚生会館

八代宮

相撲場

八代市役所

市役所バス停

熊本総合病院

市立武道館

八代郵便局

NTT

松浜軒

市立図書館

松井神社

浅井神社

小陽代侍屋敷

侍屋敷

法務局

侍屋敷

侍屋敷

侍屋敷

侍屋敷

侍屋敷

侍屋敷

侍屋敷

侍屋敷

侍屋敷

侍屋敷

侍屋敷

町屋

町屋

町屋

町屋

見どころ
いっぱい!



八代城の石垣

八代城石垣の 三大ポイント

- ① 地場で採れる石灰石を最大限に利用!
- ② 石灰石に最適の野面積みを採用!
- ③ より強度が必要な隅石は別の石材で造る!

お城の石垣の基礎知識。石材の加工の程度による分け方!



自然石や荒削りした石をそのまま積み上げた石垣です。八代城ではほとんどが野面積みです。



荒削りした石材の表面をできるだけ平らにして石材同士の接合面を増やしたものです。八代城修復時に用いられました。熊本城などにも。



方形に加工した石材を寸分違わず密着させて積み上げた石垣です。八代城では見られません。江戸城天守台、二条城などに見られます。

(※一般的に野面積み→打込み接ぎ→切込み接ぎと進化するとされています。)

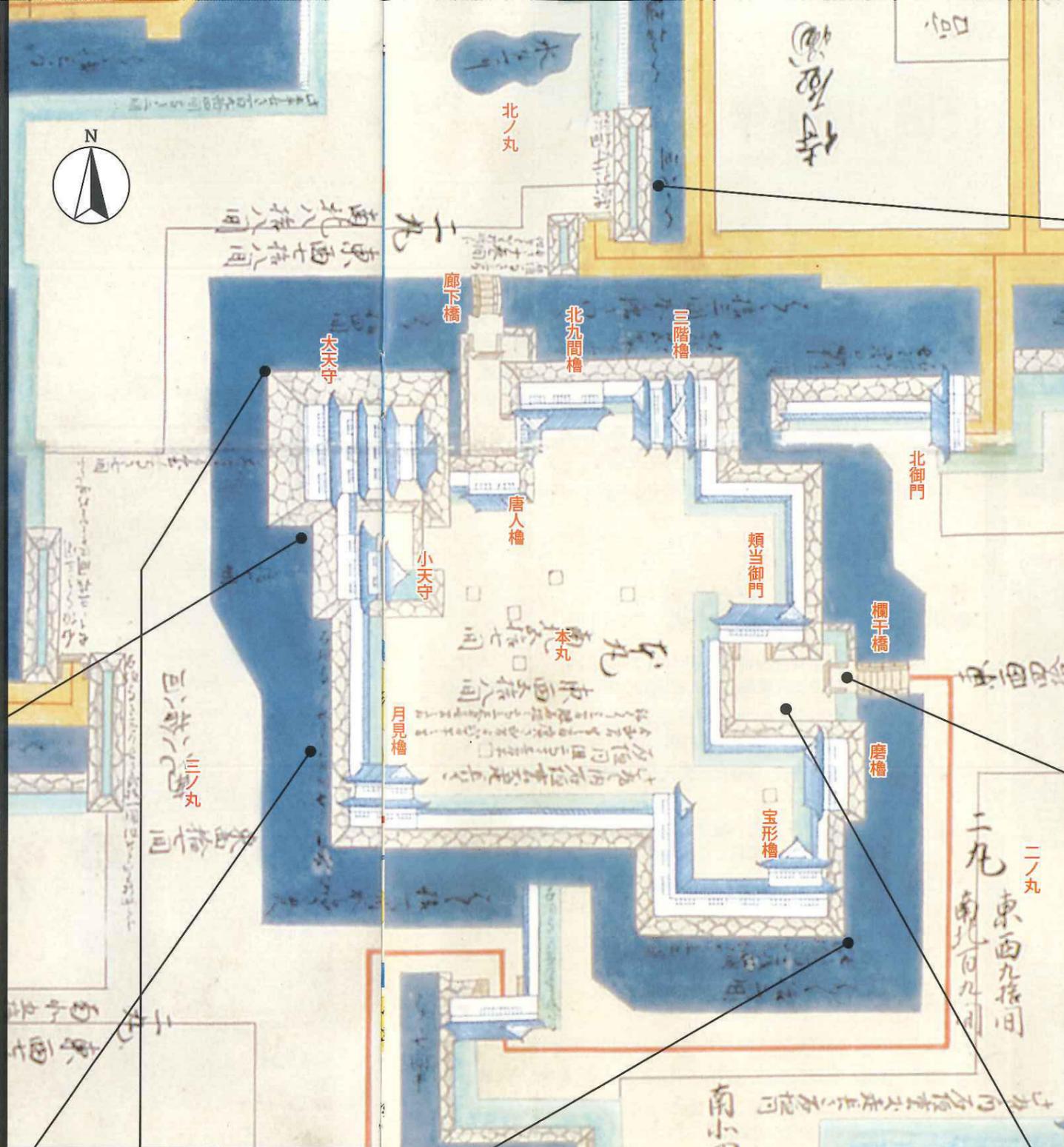
お城の要 大天守・小天守

八代城で最も高い石垣は大天守の石垣。これに小天守の石垣が連結しています。大天守は4階建てに地下1階であったと考えられています。最も高い石垣に、大きな建物がのるため、角の石材は、ほかの部分より大きな石材が使われ堅固なつくりとなっています。



何度も修復された石垣

小天守から月見櫓の石垣では、少なくとも3度、石垣の大規模な修復が行われたことがわかります。築造当初の石垣は石灰石の野面積み、一度目の修復では、安山岩を使った打込み接ぎ、2度目の修復では石灰石の野面積みに戻っています。3度目の修復は昭和に入ってから行なわれました。



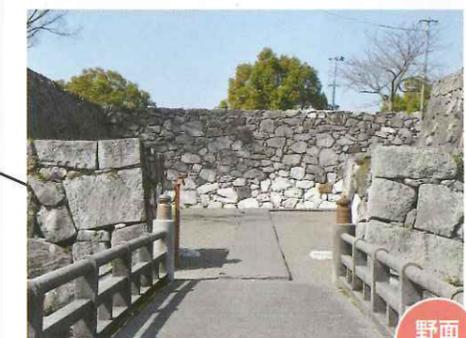
実は古い?!北ノ丸の石垣

現在の松井神社の境内に当たる北ノ丸は城主のプライベートな空間があったところです。城の中心である本丸に比べ規模は小さいものの、築城当時の石垣がよく残っています。また、本丸ではつつじなどの植栽で隠れている石垣裏の土居を見ることができます。



正門の石垣は石材が大きい

江戸時代の八代城本丸の正門はここです。ここでは他の場所に比べ石垣は高くはないのにもかかわらず大きな石材が使われています。お城の顔として特別な空間だったことがわかります。



本丸に入るのは大変!

本丸入口の欄干橋を渡って高麗門跡から中に入ると、目の前には高い石垣があります。先に進むためには大きく右に進路を変えなければなりません。お城の入口は敵の侵入を防ぐため、わざと複雑に造られています。また、石垣の上に兵を配置して、侵入者を弓矢や鉄砲で狙い撃ちにできるようになっています。

進化する石垣

八代城本丸の石垣の隅部分は算木積みで積まれています。

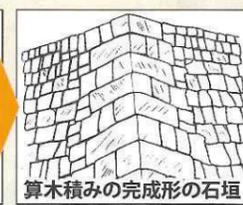
左は八代城で一番古い技法で積まれた大天守の石垣、右は最も進化した宝形櫓の石垣です。

宝形櫓の石垣は隅石がきっちり直方体に加工され、その隣の石も隅石と密着するようにきっちり加工されています。



石垣の隅部を強固にした算木積み

石垣を築く上で最も重要なのが隅角部。隅部にはより大きく加工度の高い石が使われています。算木積は細長い石の長辺と短辺を互い違いになるように積み上げたもの。慶長10年(1605)ごろ完成した技術で、麦島城の石垣には見られません。



石垣に文字?

石材のいくつかに文字や記号が刻まれています。この石には「妙法」の文字が見えます。この一角には、他に「一番三」「三番三」と刻まれた石があります。

